へ 5
6606
2

八5
6606
2

B828
多藤
学部図書に移管48年6月8日

早稲田大学
教育学部図書

60439

〈2000-298〉

早稲田大学
図書

洛西

欽明帝ノ時蘇我大臣馬子家ヲ喜捨ノ寺トス是寺ニ始ナリ其址大和古市ニアリ

梅室大人附句拔萃下卷

勢南　菊所　編輯

混雜の部

白雪の味噌を塗るあくまり
耳のもとさま寺も持もす

陰ながら寄る糸搗乃らん
世軍の志ふくさ葛よ茶よりも

世実を方り物多ものもらく
物さく思ふ人ときく奥源

千葉之助常胤
保元平治比久
坂東八平氏内
能役者大和
春日社四座
外山宝生結崎観世
今春金剛同[illegible]

千葉の流派乃今に廣まれは
保元との戦ひとこゆる頃つき
怖られし坂東も吾しむん
枕にせよと岩を撃(ウチ)つく
手掌出しく春乃緑ひ
春井北條をも人に笑まく
千歳といふひとのまを入まて
芝の佛北をなし　寄る布
東耕

前見

蜚蝱

羽子胡鬼(コキノコ)子ト
呼ハ形状似タル故
ナリ胡鬼子和名
ツクハ子ト云世諺
問答ニコキノコハ
蜻蛉ニカタドリテ
ムクロジヲ首ト羽ヲ
ツクル杈モテツキ上
レハ落サマニトホウ
カヘリヲナス蜻蛉
蚊ヲトリ食フ故也
稚児蚊ニクハレヌ
マジナヒトスルナリ

味方の声高にとゆる関を建　耕
杭のこのしらを時うり
柳千まさまさ竜も蜂の出る
芝端に出来へあれハさし説き
出絡くと露の本茶乃下流
また力とも眠くて眠るあふあさ
まけのさかひのおこるを枝
小老といふされし男出このかりる

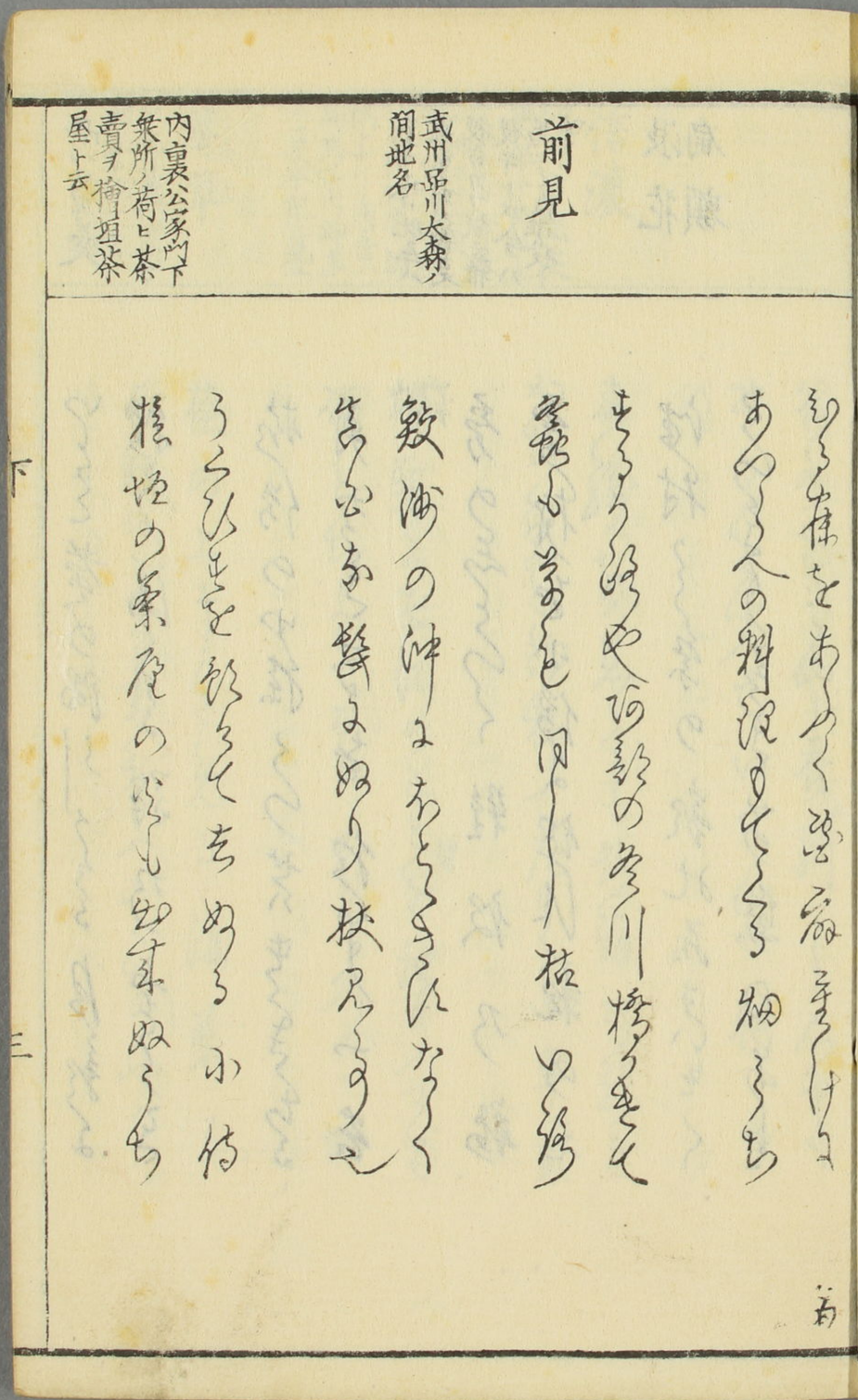
基論語博奔
アリ孟子奔秋
アリ

蓴醊

文草初屋大山
庵仕後出俗ノ
蕉門駿客タリ
寂コロヒ草ハ即
文草所著ノ艸
帋名
除夜則二燈ヲ點
スハ悪趣味ノ風
俗ニテ則唐ヲ穢
スマシキ為ナリ

黒菜

前見



武州品川大森ノ
間地名

内裏公家門下
衆所ノ荷ヒ茶
賣ヲ擒ノ担茶
屋ト云

骨董羹

古事記ニ天ノ斑駒ヲ云ヘルハ牛ハ乗車ニ用テ雑使ニ役ツカフ故ニ雑役牛ト云今ハ馬ニノミ雑役ト呼

浪花
扁額

いとこ葉の綱引かける月影を
離ら浦なる雑乃あとさき
松浦の小様にも世をきる
男なさまるを結ぶ一と出
男のみとして雑役乃轍
栗柄を小僧に綻ぶ親のえ
津村うら家の新此居さいそく
くらより書き某髪のあをき

信濃

神主ハ書紀ニ天田ノ根子ヲ為祭主ト見エタリ祭主ハ即神主ナリ又神功皇后親為神主後祠官ノ通称トナレリ唐土ニハ尚為山川神主ト夏本紀ニ見エ

蒔草（シキス）

京極黄門定家卿筆跡一流

公方を去るや吾到しれをく
地さるとぞ少ていさむ個ろ
本務を若くるも板錦乃雑を
かちも栗と約擲てたりる山年貢
綰（やさ）栗よ去派のことを流りとを
俗ともえる賣萱乃埒
稜の上手しさえる浚菜子
両睚の子のすかる書みかに空紙ゆう

宗祇姓三善号種玉庵又自然斎紀州人
弥陀翻ノ無量寿佛ト云
鉦ノ起リハ鰐口ノ半片ナリト云

前見

堀兼井ハ武州入間郡ニアリ

温牡丹

肖柏連歌ニ長シ池田ニ隠居ス牡丹ノ佳句アリ自ラ牡丹花老人ト称ス常ニ牛ニノリ吟行ス

𣏓 ハヒカシ

鹿笛 鹿ノ皮或ハ蝦蟇皮ヲ用テ簧ト作ス上ミ徒然草十二女ノハケルアシダニテ造ル笛ニハ秋ノ鹿カナラズヨルトゾ

ヨロヒ末出

書紀日本武尊東夷ヲ平ゲ歸リ甲斐國酒折宮ニ居玉ヒ進食ス時ニ歌ヲ以テ侍者ニ問玉フ比比羅木ノ八尋矛ト云。麿利花玖波鳰頂擬式異称加祢

菟玖波集流布ス　宗祇撰ス　独吟ヲ續テ白鉄

天下の名にきこへし御あらし
宗祇乃称をとゞめし涌の辺
日に名高ある弥陀堂乃跡 汳山
其姉屋と涌屋の中に坂一ツ 山
事崩しくとちゆりふき
うらしと聖地に交る捧無女
浪ならうすあきらめ乃水
焼筆を佛の緒にとりふかし
冬の牡丹は蓉えつける

賤が打ち出す牛を養(ヤシナ)ふめく
月毛の篠乃もとなる壱
出づる中なる落葉
いさよひの汐にのりて
讃岐が打ち出す笛かる
鵜の人ある今筑紫乃秋
峯を昏くうけるロ上
連歌はじめる俊乃文台

奈倍氏用現波
廬歷能用比理
狭苔塢伽塢釋
日本紀以ヲ連歌
ノ濫觴ト又

前見
留ノ名神代紀
一書本國ノ主人
伊弉冊尊ヲ祭
ル条ニ出タリ

藥ヲ服セサレハ
中醫ヲ得メリト
漢班固ニヨリ
此句暗用セリ

京安宮權現
勝軍地藏騎
馬ノ像甲冑
弓箭ヲ帶ス

話曲國栖ニ孫
王有彦モアリケ
谷ヲ峯ニヨリ
出合ヒ

師ヲ能化トシ
弟子ヲ所化ト
薄菜

前見

浪花街名

周語陽伏而不能出陰迫而不能蒸於是有地震

越前氣比社

仲哀天皇鎮座

前見

江戸街名

美濃

近江

千部ハ法華
千部ヲ轉讀

前見

伏見淀川舟
ヲ三十石ト云

砧字書ニ擣
衣石ナリ古歌
多クハ衣ウツト
アリキヌタ打ト
云ハ二見之ム
元政ハ芳僧深
草瑞光寺開
山詩歌ニアリ

精進ハ無雜ノ
故ニ精ニ云無間
ノ故ニ進ニ云今ハ
摶シテ齊戒
不肉食ノ一ニ
ナレリ

茶梅

三代實録ニ兼和年中藤原貞敏ハ唐琵琶秘曲ヲ劉二郎ニ傳ル此樂器吾國ニ入ノ始連歌ニ四ツノ緒歌ニハコトヒヨリ

角抵（スマヒ）戲
相撲（スマヒ）漢

角力　垂仁ノ朝當麻蹴速野見宿禰二人ヲ召テ力ヲ較ベシムルヲ始トス

上戸和字
本字大戸

袈裟不色ト譯スル正色ニ非ル義後色彩稱也ト云リ

前見

促織

應神紀武内宿禰甘美内宿禰二人採湯ノ夏ヲ載ヲ湯立ハ是ヲ始トスルナルヘシ

大坂玉造御番

沙彌戒臘ヲ積テ和尚トナルナリ

笠間牧洛東二十三間堂慶長年間伐開基ヨリ始ル

漢名木詳

去来肥前産後居于名西号落柳舎向井平次郎八俗称ナリ

建仁寺龍山禅師入元帰朝時林和靖来商採洋因師随ヲ来リ

南都ニ住ニ鹽瀬氏トナリ饅頭ヲ造ルヲ業トス是吾邦饅頭ノ始

漢名菖蒲

五月軒ニ引ク八泥菖ナリ

鼓子花

タチコニ種アリ江湖ニ生スル漢名鱧魚俗ニ名ヲコト云海中生スルヲウミタチコト云漢名海鄉

摂津

岡見大晦日夜
高キ岡ニ登リ
笠ヲ倒ニ着テ
我家ヲ望見スハ
明年ノ吉凶知ラ
ルヽトナリ

文珠ハ妙吉
祥ト云手ニ利
剣ヲ持ス

告天

伊勢山田ニハ鐘
ナシ光明寺ハ
豊大閤許シモ
アリテ禁セス世ニ
一ツ鐘ト云
後深草帝時
常盤井實氏
入道寄附ノ
トノ

今川義元桶
狭間敗戦

豇豆

カルカヤ漢名未詳萬葉ニ見エタル刈々草ノコトナリ一種カルカヤト云草ヲ雀麥也トスルハ不當

[illegible]

長刀坂洛西廣澤ノ上高雄ノ越ル路

乞食又花子化子ト云

アガタハアガリタニテ高田ヲ云中古ニ至リ官人ノ已ヲ住國ヲサシテ縣ト云ヨリ專ラ今ハ田舍縣邑ニ呼リ

前見

[illegible]

山城

淀祭九月廿三
両日祭神淀姫

青花魚

内則八十杖朝
ユルサレタノタリ
此句拠アリ

百年よとくく命をたのみかな
きよ住めるとゆめうゝ寝る
少しのことくく牛乃書干
百年の鶴もをゆくよ新あく
笠くみの数よ果くる浦みか
鮭のあくふ奥きたくとゆ
たゝ一百よ浦くくくき
ちくくれて数をつくくの

ホツキ本訓
アカカヾチ漢名
王母珠

洛西

大江殿のゆくくくくくくくし
義るくくせしくる俺のもくく
寄ゆくくゆきくくくくくし
住くあくくくくくくくくくくし
堀の糸ゆくく柳ちくなり
阪中くくく兎河寄よ神財を
ゆくくくよ世るゆ物をくく柳出し
亀の屋くよ住くる高笹

山城

漢名未詳
柯樹實ヲ推ト云
奥州

蓋囊抄ニ引
經云春分秋分
晝夜皆等ヲ
如此西岸ニ因テ
此岸ト云此說
是ニ近シ彼岸
ノ字不當ニヤ
鵲前見

漢名集詳

蓑笠ノ始ハ書紀素戔嗚尊結束青草以為笠蓑而乞宿於衆神トアリ

能登氣多社祭神大己貴命又天沽玉命ナリ云

鵜祭十月

鳥鬼

出城國相楽郡
今ノ木津

木出

野坡越前人
江戸及浪花ニ
住スヲ号樗木社

大松ノ陰ヨリ
ありくくうかるる蛍
拾るの新れ丸を慶るこの夢
ふるの蛍ふも 徐ふる 蛍
この蛍を和らの里よりの迷
一節の芒ねを乃指まく
流のをしを ふるを 風
をの蛍の杖を流くるを 再拾
流をあるよ雛の倉をとゆん
みみを角のうりつくを

抱

扇ハ ヲグナリ
指扇ハ此邦
製ニテ漢ニ入
團扇ナリ

蛍ふ人も出ふ人を愛ふ俺
をくりくを 出ふ 牛の蛍
流をふも花をふる時をつる鶏
流を をふ人をまれをふ
蛍ふけを をふるを をふる扇
ふを流ふふ 愛の流れく
牡丹ふをけ ふふ 蛍ふ
流ふふ 蛍 あふる 愛を 蛍

浪人和字ニアラス王勃春思賦僕本浪人ナリ

三支図會ニチタメ讀習モノニ非ス

近江

ハウシキハ撃柝俗ニハヲ搏シテヘウシキト云

姫神盛衰記見エタル奥州笠島ノ神ヲ云

ニヤ

祝詞神ニマウス詞

上野信濃界

祐庵茶人ナリ

淡海堅田人

北村氏

キリクヒノ捜

徒然草中語

奈良茶茶ニテ蒸セル飯ナリ

石菖

前見

鹿梨

哨船

近江ノ生島四十九院アリ又高宮ト愛智川ノ間ニモ四十九院ト云処アリ此句ニテハ竹生島ナラン

宇迦之御魂神

稲荷神社

京街名

末出

六角堂六洛陽中心ニアリ太子草創

蹴鞠諸書ニ用明天皇朝ニ始ルト有レドモ唐代ヨリ傳ヘタルヘシ彼土ニハ漢代ニモ此戯アリト見エタリ

落しゆく人のこゝろは月の浮世
承知してかへる袖年尋ねる
鞠の使乃日はことひすゝる
ことしくと自刎しうする池の端
夕飯も喰はず医者の驚きけり　一嘯
寿々このけふる三笠乃紋
菊の葉を扇に拾ひつゝく　哺
誹諧を落すき蓋けしき

江戸
漢名未詳
書紀日本武尊腰ニ着玉フコト見エタリ
杉田勾當望一伊勢山田ノ住ニ後受貞徳翁ノ添削ニ百韻聯句寛永古写本予家ニ蔵ス

西京
末廣ハ蝙蝠ノコトテ又中啓ト云

世はみだれし霰乃小人形
たちまちて江戸の医者を呼ぶ
喰あかく物よ山尭に十このう
奉家の仰も皆候悪くゝ
望一頃に百乃つまりし
笑しき残りけれの姥りく
植ゑし奴家を東寺に壬生狐
末廣落す華人乃哺る

嵐雪服部氏
号雪中菴

七草萬葉集
芒之花　平花
菖花　蟹爪之
花　姫部志又
藤袴　朝貌之花

紀伊

前見

鮎大和芳野
川名産
漢名香魚

前見

近江多賀社
祭神伊弉諾
尊

鴻

毘盧舎那佛三
大日ト云

子キハ子ノ義
日本紀所ヨメリ
職ニ云補冥ノ
祈ノ訓ヲ本朝
月令ニ念義
續日本紀ニハ
補義ニ作リ

柑

秋ちかき山ちの里の乃ちく
ゆとはされくゆぬのる菅笠
たのしのたるもの稲をうちもち
早稲田のうねを掘とりそのせ　金水
掘のをうくを移植乃移殖
家をのまくくに元くる秋の風
笑法うくをくを寄柑あくも　水
雜業長年
小佛の柳くを義田新年

怨人郎去来ガ
句ヲ襲テ作リ

衛矛

背見薄日光
十禪寺ニテ

前見

法華八天應ノ
項日蓮是ヲ私

所為といくくれる悪を事
を牧ほとのるカ降出
紅葉ス弥くくに秋のるり
を出くく早くむそのの擔ちる
背ウ滅を者も佛もなくるを
秋もくれ乃刈萱
澤くくを人を送る　皿　簑
かくくくを如ら法華くかくくく

利休田中氏後改千氏名宗易号抛筌斎茶道中興ノ祖

近江

月令孟春獺祭魚

暴風

文溯

石川丈山隱居洛東吳山ノ詩仙堂ノ築ノ

雜兒腸

竹葉鰛

一針一草梵網經三見ユ八僅ハカリノ物ヲ人施ヲスルヲ云フ針供養モ之

臘ハ微物ヲ仏供スルヲ云ニヤ

鮭漢名松魚

御師御祈祷師

略東鑑寿永三年胥武祈願御祈願アリテ奉寄武蔵國大河土御厨ノ所ヲ伊勢外宮供為年来御祈師諸社権祝宜光親神主源氏玉鬘巻御師ノ称見エタリ傍注云祈ノ師ヨリ

槍 大平記住吉合戦条下 楠正行兵士内天野了願上云法師武者柄ノ長サ一丈許ニ見エタル槍ヲ馬ノ平鞍ニ副タリトアリ以前ノ書槍ヲ用タルヲ見ス或云槍ハ楠正成カ所造ナリ上云日本紀三代実録ニ見エタル槍ハ子戟類ナル故ニ保古ト訓セリ今槍ニハ非ルヘシ

曹洞宗越前永平寺ヲ本ヒ曹山洞山ハ僧名

素襖源氏物語 巻 注ニ云素襖ハ襖ノウラヲノケタルモノナリ大双紙ニ見エタルスキスアウハ是ナリ単ニ地文ナキカ故ニ素ト上云ルヘシ

懸素襖ハ略ナリ

袴ナク烏帽子ナシ

計の作者乃宵の寄のめく
乾 鮭の見なるれともめてこそり
物うも篠も篠の鶴よ結ぶく 禾菓
横 持かうく竹千 長 海く
初宮よ古師の猪の毛の寄く 菓
鶴 坊乃土を たく永きは
ちつと ちまよなれハ百 連
横ハ海 海 埋る海次千
長 長 ちつく おり 陸 持 相百
ちち 横 賊 寄 人 たち

秋の長く夜のぬるる接 接波
かちく 結も 年 乃 寄
曹 洞宗乃 ものゆやう
庭 人の素 襖を 着 ちけて
れく 長 の ちまる 乃 弥 陀 堂
京 ち 初 菓 乃 一 限 年 なる
毋 乃 婚 仏 な 未 屋 を ほる
鬘 髪 の 縁 も 掛 ハ 足 乃 鐵 ち て

福神一説大黒
恵比須ヲ大貴
已東代主二神
ナリス今朝画
スル大黒ハ西土ノ
摩訶迦羅神ノ

京東山

前見

大和藤原
持統天皇都

書紀背負
千箭之靫ト
アリ後世胡籙
箙羽壺ノ諸名
アリ

前見
串童
西近江

そよきぬお襟をさすまじる
やうそ利茶店にて秋の風
藤菊（コエ）婦く乙津の町の名かゝるき
彫様ゝ京年志ころ泉守筆
すゝろ婦まゝく通る緋色
草儀の以と殺れぬ風情
新の月曽清のちかは胴る之
露に障とく華待たく

壬子ヨリ癸亥ニ至ル十二日ノ中間日四日アリ故ニ八専ト云

義経記等金商吉次アリ謡曲ニ吉次兄弟トアレ圧吉六ノ名所見ナシ

山城

鞴神ハ三条宗近カ故事ニヨリテ鍛冶師稲荷ヲ祭リ来レリ

是の太鼓のくどくる八せ
砂子をこの胴乃書やらん
ほとゝぎす月のさこえの山なかし
眼を本井に吉次吉六
きのりとるとてあれ罷春
盆まに条ぬさゝる鞍馬山
身を入れるあと悔ある洪扇
鞴（フイゴ）の神をまつる吉八このる

丑寅ヨリ吹ヲナラシト云方言ナリ
ヒヒ云
後鳥羽院ノ時
栄西入宋シテ禅
法ヲ傳ヘ来ル
後鳥羽院ノ時
法然上人易行道
ヲ勧メテ浄土宗
ヲ立ス

駿河

なるなるとの山ぶく蟬も牧を鳴　禾篠
仏檀を深て塔を八浮ち家
湯の徳利をこしらる梅売　篠
大ぶも咲くぬくとき五月雨
富士川のとまりのうつる秋の風
夕雨笠ちくしん者のつるひ
一ぶを抜を拂ひ
ふるとの知るまりのつくるて
ちるは波のうつる高ぶく

逸史明皇夢二
終南山ノ老僧尺
八ヲ付ス上コレヲ
吹二前ヨリ習ヘル
ヒ、如シト云ヘリ八
此邦二傳ル何ノ
年間ト云コトヲ
不考

伊勢

図俗鬼名琴云
今十三絃ハ箏也
河海抄二命編ノ河
色子筑紫彦ニテ
唐人箏曲ヲ授ケ
色子是ヲ宇多
天皇二授ケ奉ル
因テ筑紫琴ヲ
正云

月ぶ抜ともも新乃初をの
尺八の河の系稲ぶまきく
小を鄭医者の丁雅もとぶ
法と杉原乃るうぶ合
きぶ入一人ぶる　うき
夏ぶ月ぶ作ぶくあはれ
時とぶうぶ乃ぶのぶまく　象四

丹波能勢
妙見

欵冬

陸奥

蘆

猶間地名家隆卿爺納言光隆

猶間殿ト称ス弟仲
相見イ平語等
ニ見エタリ

前見

[illegible]
角黍屈原ノ
男女ノ故事ニ始
リテ今モ端午ニ
作リ習ハセトヤ

前見
穆子

大和

前見

山

数珠念珠ニテ数ヲトル故ニスヾト呼来リ

前見

近江

撰集抄壽永年中西行讃州善通寺ニアリテ作レリ

神風神武紀ノ歌ニ初見ユ伊勢ノ枕詞トス伊勢ノ風氣温厚ニノ尊神ノ鎮リ座ヘキヨト前古コリ懸議スルトコロナリ

右京亮藤原保輔女兄ヲ給ヒ強盗ノ張本ナリ

撰集抄七 後人

鼓初の年よりゆる初花の梅
塚の苔は月ぬきをと札ちりく
もゆるも消えぬ思ひのもえ
佳ちと、のくる雪と弥陀
弥陀仏をしるしるふす程
嫁ゝゝゝゝ思ひ出ぬいつめ
月秋を知の清らも
小笠上ゝ年ゝ雪を明らす
庭の日暮ゝ人を待ゝ
苔鍵を掛けもいまぬ人の春
出門の柴をの人の春も
いのち捨ゝく逐る 小御（コカタリ）
るの浮ハワせぬ雨ちち 林曹
明ゝ雨ゝ雨ゝ生の人ゝ
秋千雨れもかゝ笠もる
影氏のゝゝ塚のゝ 曹

袴無ハ異名ナリ

前見

寛平法皇御室ヲ仁和寺ニ構サセ給ヒシ門跡門主ノ称号起レリ

編笠ノ名太平記十巻相模太郎破ル草鞋ニ編笠着テトアリ

雞冠花

弥勒此ニ慈氏
上云補処ノ菩
トノ兜率天上ニ
アリ

法華八講
法華要文ヲ
問講師逐一
答述ス一日座
之講アリ故名
陀羅尼勉持
ト翻ス一切真言
ヲ云

鵙

雛遊源氏挽草
紙等ニ見ユ雛ハ
謂ル人勝ナリ
源氏須磨ノ
御夜之形象来
セテ流ス一見ヲ
タレハ上巳雛遊
モト穢物ヲ祓ヘシ

孝徳紀ニ天化
年間新羅献
孔雀鸚鵡各一
隻是ヨリ以五郎
鳥多クナリ

踊盂蘭盆経ニ
七月十五日ヲ歓
喜自恣トスルニ
ヨリテ歓喜踊
躍ノ態ヲスルモ
ナリ

道祖神佐倍乃
加美書紀ニ謂
ヱル岐神コレニ
當レリ乃

旦東方ニ見ル
太白ト云昏西方
ニ見ルヲ長庚
ト云

佛瑞應経云
四月八日夜明星
出ル時生ル即周
莊王十年四月
辛亥也ト法苑
珠林ニ見エタリ

律三云佛聽蓄
杖蓋行李之
善助ナリ

江戸

奥儀抄ニ鳩吹
ト八何ヲ又ン呑曰
獵師人鹿アイト
知ラセント思フニ
手ヲ合セテフ多
鳩吹ト八云ナリ

陶尾張守晴賢入内義隆ノ臣謀殺シテ押領周防長門核制元就ニヒケル

播磨

[illegible]

羅漢松

上野赤城金冒連母ノ獄苦ヲ救ノタメ盂蘭盆

[illegible]

會ヲ設ノ盂蘭供
救倒縣上云盆ノ時
食油菓ヲ諸国
皇節過テ後行
フヲ流行盆上云

美濃

三河

遠江秋葉權
現社祭神火色
貴命

西方弥陀ノ國
土ト云故ニ願生
徒ハ皆西帰ノ
想フナスナリ

竹譜曰竹次
月為春

前見

攀（ハン）

（ハ）我國古ノ臣
木下書ニテヨミト
訓ス後モ之ニ訓
レリ

卓雅

前見

新田左兵衛佐
義興ハ鄕川上
矢口渡舟中ニ
自殺ス其靈
崇ヲナス

近江

照姫ハ相州權
現堂上云宿ノ
遊女ナリ小栗
満重男小次郎
ヲ危難ヲ救ヒ
シニ大音ニ紙ニ
見エタリ異本
照手姫アリ

観世音普門品法花ノ流通分ナリ

今井四郎兼平ハ義仲忠臣ナル粟津田畔ニアリ

雪隠雪賓ノ故事ニヨリト多クハ云一説ニ則近ク青椿ヲ我其香樹ヲ去テ雪隠ト書ハ音ノ轉セルナリト云

前見

前見
行厨

鴫鴨
前見

未ゝ能乃佛くさくよ
出かくむさき途よ哉見達
兵庫の解義にとてしき約伴ふ　硯山
えん形かきまる風呂のまゝ清
別宴のなごれハなかぬ妻ぬ
嵯峨の雌雄か今ぞ知るゝ　山
なにしまぬ東風のふらかりかむく
乗合の縁本陣の大名家
のきそかしく流るゝ魚を薬ふくる

山城
古ハ夜百合香ヲ聞ノ意アリ

松く川よなかる淀の町
とちく向くも帳も切り焼
石鷺(サオ)を雲の下くて引出く
遠く扇下の雲乃くまあり
林よちらきも秋まて吹ゆる
始利を拾く小風るを絡く
生贄しみ煙の縁も露るれ也
ふり会を中々婚しき紐もあり

下

前見

田青橙

信濃

山城

漢名未詳

江戸

山城字治
黄檗山ハ帰朝ノ僧隠元隆琦ヲ開山トス

常陸

西住ハ西行上人弟子在家ノ時ヨリノ給仕セリ

前見

伊豆

覆膊

莊子養生主
庖丁爲文惠
君解牛庖丁
ノ名此ニ始ル

甲斐

前見

賽本名數字

丁香

冶工石凝焼命
ヲ祖トス

仁德紀四十三年
依網阿弭古捕
異鳥召百済寺
酒君問之對曰昔
済呼倶知未幾
時而得馴酒君
居脇上献之即
今時舊也

補陀落山ハ南
天竺ニアリ観音
垂跡之地熊野
那智山ハ補ノ云
ナリ

梅室大人附句拔萃下卷終

風景ふ遠ふして友ふ[illegible]
高かれ山水の幽邃野[illegible]に[illegible]
八[illegible]蟬姉紅蘭ふ遊[illegible]
海氏あ[illegible]ひ八蟬あ[illegible]
吹りあ[illegible]

あ[illegible]わ[illegible]ふ[illegible]の形状と[illegible]
は[illegible]桜宴人連歌乃調べ[illegible]
野南に菊所[illegible]か[illegible]標海を
[illegible]て撰小[illegible]
[illegible]人道に[illegible]に[illegible]

なおさりて此ちえん人さもあらうると
それそれ叶ふあるて
戊子仲春望家方言信陽史田中書于寓居
西雲斎蟹磬苑轉

金花堂藏板目録

日本橋南通四町目 須原屋佐助

源氏忍草 五冊 成島公序
此書は源氏物語一部の大意を和字にて仮名やすくかきあらはし さらに耳なれぬことばを解きて 源氏をまなぶ人の心ざまに助けを得べき書なり

萬葉楢の落葉 五冊 正木千幹大人輯
此書は数多く物のくんとさる萬葉のことばに萬葉集の中の難きことばをあつめてこれを類をわかちて 五巻とす
一の巻 天象の部 二の巻 地儀の部

三の巻 神祇 釋教 人倫 國郡 居所の部
四の巻 賦 [illegible] 五の巻 [illegible] 恋の部
[illegible]

中臣親福大人著

千載之跡

此書は新撰草 懐紙 短冊あるいは古人の
[illegible]

水居先生輯
村田並樹大人校

古今選

此書は中昔大人の[illegible]一代集を
中[illegible]
[illegible]

類題和歌補闕 六冊

加藤古風大人撰

[illegible]

唐物語 一冊

西行上人作
清水濱臣大人標注

[illegible]

仮字考

岡田眞澄大人著
鵬齋先生漢文序
濱臣大人かな序

新朗詠集 一冊

真海柏木先生輯
素堂山本先生校

歌仙繪抄 一冊

藤原正臣先生著
喜多武清先生模畫

言元抄 一冊

大石千引先生著

撰集抄 [illegible]

假字後撰集 一冊 大野廣城先生輯

此書新撰萬葉集の例に倣ひ假字書にして[illegible]

古今和歌集彩校正 二冊 賀茂の羽考正 鈴屋翁再訂

是は古今集の[illegible]

後撰和歌集 小本 二冊

元和帝御撰

集外歌仙 一冊 一名 近代歌仙

[illegible]

正後假字遺 一冊 賀茂季鷹縣主輯

此書は古筆紙に書紙和名抄のことなり
つらつら紙の俗言なるべしいろはのくさ安もろの俗あらし

源氏百人一首　一冊　黒澤翁滿大人著

此書は定家卿の撰び給ひし源氏物語の中なる
百人を撰び出せるなり其歌毎に其人の
姿をかくらまして安倍仲麿の
如きのみ安倍仲麿を加へらまてるは
源氏物語に書記さるとうまの人にて

小本錦色摺　一冊

紙子清息　一冊　雪中庵蕉太翁述
紙子の名ある紙衾あるとも
乃ち此しるしとなるべきなり清息
とゝまるなり

芭蕉翁句選　一冊　門人　二翁　者
此書は芭蕉句選の巻下方に
俳諧付録なるべきなり書なり

古今
千五百題翁句集　二冊　黒瀬曾見翁校輯
此書は古今名人の翁句を類聚して儀
門人なるべし人名あらしるべし

字と呼ぶ人うゐ人とも

俳諧年表 一冊　　恕尺齋豊山翁著

此書は貞享元年芭蕉の歳旦句をはじめとして名家の年表をしるせり

俳諧人名録 二冊　　東都惟草茅先生輯

此書は俳諧に人名をいろはにしたがひて名家の下ふ其句をしるせり

俳諧發句題叢 一冊　　椿丘太節翁輯

此書は和歌題叢抄にならひて近代の作家二千

七千二人の発句をあつめ名家の名号をあげたり

俳諧歳句綱領集 初編 一冊　一名口調亀鑑

此書は宇治家の摂州の人の作にして百都の名所の発句をあつめ代々の作家の編集せる発句をあつめたり

俳諧合続 懐中本 一冊　　拙堂芦丸翁撰

此書は俳諧の名家の人の句を四季に分て新合
〳〵撰集せるの便りとしるす書なり

俳諧職業盡 二冊

茶静 大人撰
梅令 大人校

今人明題集 二冊

双雀斧 氷壺翁輯

時宜恵嚢 一冊

未學先生秘授

[illegible]

和[illegible]画[illegible]の[illegible]あり

金生樹譜　三冊　長生舎主人編

[illegible]草木譜[illegible]の[illegible]接木の[illegible]

[illegible]の[illegible]を図[illegible]その[illegible]を[illegible]

[illegible]

松葉蘭譜　一冊

[illegible]松葉蘭[illegible]雪[illegible]

[illegible]

幼稚画手本　一冊　柳畑堂主人筆

[illegible]の書も[illegible]の[illegible]を画[illegible]人[illegible]

[illegible]柳畑堂[illegible]

古今名高図案　絵本金剛傳

絵本雪士鑑　絵本武者揃

早[illegible]二體節用集文成

勸善忠義傳　二冊

畫筆勲功草前集　五冊　山崎知雄大入輯
喜多武清先生畫

吐書は古今の英雄豪傑の名譽ありし事蹟を
古事紀日本紀記紀古語拾遺
喜紀古語拾遺等紀本數十部の國史雜史等に

新を撰ぶ一いさゝかも名譽の誤を海内に傳ふる文
紀ゝ古へ書ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ
とぶ古へ書ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ
の中に古へ書ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ
準撰ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ
みの人ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ
傳ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ
てゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ

後集は近世の人物に仕る

足利家武鑑　一冊　間鐘先生校

吐書は足利將軍家の武鑑にして喜氏の紀源法
家紋撰ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ

繪本三國妖婦傳　上編五冊　中編五冊　下編五冊　合十五冊

世上ニ高蘭山人生の校本ハ世上ニ流行の繪本ハ長大ニ流行の書なり

抱一先生画譜　一冊　彩色入善本

動物画譜　名家画譜　二冊

魚獵手引種　繪本百物語

梅室家集　二冊　梅室先生自撰の集あり

梅室丈人俳句抜萃　二冊　勢南菊所　編輯あり

禾葉翁俳諧集　五冊　双雀庵禾葉翁の家集也

日光山誌　五冊　植田孟縉編

更科日記　二冊

武家用文章　一冊

[illegible]

[illegible]

裁縫早まなび　横本　一冊　女中必用

[illegible]

蘭奢待秘傳抄　一冊

[illegible]

古今名物類聚　全十八冊　不昧公著

[illegible]

廣益諸家人名録 一冊 詩佛 五山 両先生序

此書ハ現存の儒家和歌書画篆刻図学家貴賤の老若好事家詩作家醫家其外何家にても行ひ居る人の家号住所名字を年号までくはしくしるしてあれバ諸家を尋ぬるに便よろしきゆゑよにもてはやす書なり

富士根元記 一冊 鈴木頃行先生校

此の書ハ鈴木翁が絵図をも添へ出せし清の もとより駿河の富士をはじめ浅間神社縁起 その外名所旧跡などの事あり 流の末まで一覧する書なり

甲冑圖式 一冊 同 著

此書ハ武林法量ニ編ニシテ甲冑ノ圖ヲツマビラカニス

弓箭圖式 一冊 同 著

此書ハ先生著ハス処ノ武林法量中弓箭ノ一節タリ武家方カナラズ見玉フヘキ書ナリ

單騎要略 五冊 村井昌弘先生編輯

此書ハ甲冑ノ着用故實褌襯衣等着ヤウ頭盔ノ緒ノシメヤウ背旗ノサシヤウ等マデオく図ヲ設ケテ詳

一サトシ手ニ携ル処ノ鎗刀器械ニ至ルマテ其故實ヲ明カニシ一騎前ノ要領ヲ畫セリ武家方ハサラナリ有職ノ學シ玉フ人ハ必坐右ニ置ベキノ書ナリ村井先生ハ神武迪精武學先入等ノ作者ニシテ其名高シ

掌中古刀銘鑒 一冊 巨擕園輯

此書ハ先ニ銘盡數多アリトイヘ尺其ト事替リ當 同前 事両作一傳ノ次第珍數作人其外吉野年号打作人及文中心鎬廣狹帽子固條脇煮鉋取造リ樣子梵字并彫物ノ次第鑒定會ノ入札ノ咎ヘヨリ致シ鍛冶ノ官名作人位列鍛冶ノ系図并名寄等ニ至ルマテ委シク纂シ難キハ圖ヲ出シ疑敷事ハ載ズ奇大ノ珍書ナリ

校正古今鍛冶銘早見出 尾関氷富大人撰 寸珎 上下合本一冊

此書ハ大宝中ノ天國ヲ始トシテ今ノ世ニ至ルマデ千百餘年ノ間鍛冶ノ銘ヲ輯錄シ殆一万三百六十餘工ニイタル古カヒ千六百八十餘 新カ二千六百八十餘 如此多銘ヲ集シハ未世ニナキ所也シカノミナラズ見出ニ速ナランガタメ銘ノ頭字ヲいろは分ニナシ長銘二字銘ハサラナリ年号彫リシホドノモノハ其年号ヲ題シ年号ナキモノハ其時代ヲ考ヘ年紀ヲ施シ父子兄弟子弟ヲ紀シ且梵字ハ冶工ノ信心ノ故スル処ナレハ是等ヲ題シ亦甲冑ハ我身ヲ護ル第一ノ要具ナレハ巻末ニ妙珎家早乙女家等ノ家系并ニ鑑定ノ次第ヲ附錄ス御武家方ハ云モサラナリ武器商ノ家々モ片時モ坐右ヲハナサレザル珍宝ノ書ナリ

古刀
新刀

目利早手引　同撰　両面摺

此書ハ又紋ノ按又ハ時價或ハ切レ物并様々ナド顯シ初学ノ便リニ上ナキ珍書ナリ

古刀
新刀

相撲取組　同撰　同

古今刀剣

正真便覽　同撰　折本

此書ハ古刀新刀ヲ銘忠鉄ハ云ニ及ズ及紋銘ニ至ルマデ正真ノ仍ヲ写セシモノナレバ此図ヲ見覚時ハ正作ヲ見テ立所ニ夫レノ作ト知ルヿ面涙ノ人ニ逢ガゴトシ又カ鍛ハ圓形ヨリ出ルヲ図ヲ以顯シ且疵ノ用捨或ハ目利會ノシヤウ又ハ當同前并ニ点ノシヤウヲモ附錄シ亦劔尺ヲモ錄シテ懐中ノ重宝トス実無双ノ珍書ナリ

明季遺聞　四冊　清鄒錫山先生著

此書ハ清ノ鄒錫山ノ手輯ニシテ明末李自成ノ乱ヲ倡ヘ本末ヨリ清ノ閩廣ヲ平定スル事ニイタル國性爺ノ事實等コノ書ニ詳ナリ

歴代帝王承統譜　抄本紀　一冊　藩春川先生校閲

此書ハ唐虞以来清ノ道光帝ニイタルマデ歴代承統ノ主ヲ系譜ニ作リテ歴史ヲヨムモノニ便リス

草聖彙辨　八冊　清朱迎陵先生摹辨　皇國永根文峯先生校字

漢土ニテ歴代ノ草法ヲ集メタル書數多アルガ中ニ此編精

善ナルニ如ハナシ我朝兼明親王ノ書ヲモ此編ニすサヲ出セリ
始メニ二畫ヨリ三十畫ニ至ルマデノ檢字アリ此ニヨリテ字ヲ索ム
ベシ第八卷ニ草法母觀ヲ附シタリ草書ヲ學ブヒトノ君子珍
セズンハアルベカラザル書ナリ

草書前赤壁賦 一冊 天民先生書

此書ハ前赤壁賦詩佛先生ノ書シタルナリ筆法一家ノ風ニ
激ナス働セス手本トスベキ書ナリ

小學題辭 一冊 龍澤先生書

此書ハ宋朱文公ノ小學題辭龍澤先生ノ書シタルナリ筆
力怒張唐人ノ風アリ

草書千字文 一冊 屋代先生書

此書ハ輸池屋代先生ノ筆法ヲ見ルベキ刻本ナリ

玄對先生畫譜 三冊 玄對翁筆

此書ハ人物花鳥ノ類ヲ玄對先生ノ畫習ノ人ノ手本トカシ
タルトリソノ詩絶ナルヿ本書ヲ開キテ見ヒラベシ

西音發微 二冊 抑圃先生遺教 大槻玄幹先生著

此書ハ和蘭書譯ノ時西洋語ニアタルヲ和音唐音ヲ
撰ビ對註ノ仕樣ヲ詳ニサトシ西洋字原考ヲ附シタリ

武器袖鏡　一冊　栗原先生著

此書ハアラユル武器ヲ図式ニトラヘシテ且附言ニ兵士ノ事ニ及ビ精密ヲ極ム

武器袖鏡後編　一冊　同　著

此書ハ甲冑半首喉輪ヨリ馬具旗指物等ニ至リスベテ武器ノ図式ヨリ

武器袖鏡三編　一冊　同　著

此書ハ現在スル古甲冑五十二種ノ威色ヲ彩色図ニアラハシ甲冑製作ノ便ナラシム

皇和魚譜　二巻　栗本先生纂

此書ハ河海魚類凡五十一種ノ図説ヲアゲ巻二ハ河海通在ノ魚類一十三種ノ図説ヲアゲテ海魚ノ類ハ逐刻ニ出ス魚類ノ性味ヨリ毒ノ辨シガタク混ジヤスキモノ此書ヲヨミタマハバ分明ナルベシ

為己執記　一冊　羽佐間芝叢先生著

此書ハ醫道ハ人ノ為ニスルワザト心得ベキ己ガ為ニスルノ仁道也ト心懸ルガ肝要タルヿヲ辨シタル書ナリ

老婆心書　二冊　同　先生口訣

此書ハ婦人姙娠ヨリ小兒出生無病ニ成長セシムル手當

温凉調理飲食好惡宜忌等ヲ假字ニ書シテ心得ヤスカラシム

張氏醫　九七冊　明張路玉著編

言志録　一冊　佐藤一齋先生著

近代名家画帖　三帖

近藤蕾根集　全五冊

[illegible]

細続中庸　全弐冊

[illegible]

佛祖手引草　全弐冊

野孤茗話　常盤潭水著　全弐冊

[illegible]

[illegible]

華究圖考　彩色摺大形本全一冊

加義美測翁奇集　小本　二冊

橘子羅翁奇集　小本　二冊

奇集　小本　二冊

和光堂先生書
六角帖
氣齋帖
歷代先生書
柳葉子字文
樵山先生書
歷代帖